

米国屈指のシンクタンク、ブルッキングス研究所が 日本研究専門ポストを新設 ～国際交流基金からの支援により実現～

米国・ワシントン DC にある世界的にも著名な政策シンクタンク、ブルッキングス研究所が、日米関係に関する政策提言と発信の強化を目的として、本年8月30日付で新たに日本研究を専門とするポスト(「日本研究チェア(Chair)」)を設置しました。

本ポストは、国際交流基金日米センターの支援により実現したもので、アメリカン大学准教授で、ブルッキングス研究所のシニア・フェローとして新たに採用されたミレヤ・ソリス氏が本チェアに就任しました。

近年、米国の政策コミュニティにおいて、日本の存在感、日本への関心が希薄になっているとも指摘されています。中立・超党派のシンクタンクとして知られ、米国の政策形成にも強い影響力を持つブルッキングス研究所が、日本の政策や日米関係、東アジアにおける国際関係など、幅広い分野での日本に関する研究と、公開講演会や政策提言などの活動を行うことで、米国の政策決定層・世論形成層の対日関心の喚起、日本関連の情報発信の強化が期待されます。

<ブルッキングス研究所ウェブサイト>

<http://www.brookings.edu/about/media-resources/news-releases/2012/0905-solis>

<http://www.brookings.edu/experts/solism>

ミレヤ・ソリス Mireya SOLIS

米・ハーバード大学で博士号(政治・政策研究)と修士号(東アジア研究)を取得。専門は比較政治経済学、通商政策、日本の外交・対外経済政策。著書に『アジア太平洋のFTA競争』(編著)(勁草書房2010)など。

安倍フェローシップ・プログラム(米国社会科学研究所(SSRC)と基金が共同運営する研究奨学金)2004年度フェローなど、活躍が期待される中堅・若手世代の日本専門家の一人。



■ 国際交流基金の支援経緯 ■

国際交流基金日米センターでは、米国における日本関連の政策研究の振興やネットワーク構築を支援するため、2009年より米国の有力シンクタンクへの助成を行っています。

ブルッキングス研究所に対しては、2010年よりチェア設置についての協議を重ね、国際交流基金がチェア設立当初5年間の運営経費を支援し、同研究所がチェアの常設化に必要な基金の寄付を確保するマッチングファンドの形で、日本研究チェアの設置が実現しました。本チェアの名称は、基金を寄贈した同研究所理事のフィリップ・ナイト Philip Knight 氏(ナイキの創設者)の名前を冠して、「Philip Knight Chair in Japan Studies」と呼ばれます。

本件のほかに、現在日米センターでは、外交問題評議会、カーネギー国際平和財団、東西センターなどの有力シンクタンクにおける日本研究の活動や日本関連の研究ポジションの設置などに対する支援を実施しています。

【問い合わせ】 国際交流基金日米センター 担当:小池

TEL: 03-5369-6072 電子メール Wakao.Koike@jpf.go.jp

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

www.jpf.go.jp